

町政を問う！

一般質問

12月定例会では10人の議員が理事者に
対し、23項目の一般質問を行いました。
なお、質問と答弁は要約してあります。

今後の人口減少 における 清水町農政

鈴木孝寿 議員

少子高齢化から人口減少という事象が顕著に表れ、本町の基幹産業である農業は2015年を基準として10年後の2025年には、その農家戸数において20%以上減ることが予測値として提示されている。

また、国際情勢やTPPに係る問題が山積しており、今後どのような方向性を持って農政を推進していくのか伺う。
①法人化への対応と今後の見通しは。

②経営規模拡大における農地の合理化は。
③規模拡大や担い手不足に対する農業従事者の確保は。

④清水町農政における課題分析とブランドデザイン（全体構想）は。

高薄町長

①法人化は避けて通れない問題であり、現在ある35の農業生産法人の検証も含めて考えていく。
②農地の集約化や区画整備事業により農業労働の省力化を図っていく。

③十勝が一体となった農業労働者の条件整備が必要であり、新規就農に対する経営継承のあり方も従来から一歩進んだ形にしていかなければならな

い。
④継続的な農業対策を行う中で、課題を見つけないから関係機関と共に方向性を出していきたい。

ふるさと納税の 取り組み

鈴木孝寿 議員

ふるさと納税は、故郷に限らず応援したいと思う自治体を選び、寄附を通じて支援をいただく制度であるが、視点を変えると本町をより多くの方にPRするチャンスである。9月定例会からの進捗状況を含め、今後の運用方針を伺う。
①移住促進を含めたソフ

ト面に対する考え方は。
②寄附をしていただいた方に対するアフターフォローと今後の推進方法は。
③いきいきふるさとづくり基金の用途指定の具体化は。

高薄町長

①清水町に興味を持ち、コメントを寄せていただいている状況もあり、十勝清水の良さを出す方法を考え、応援していただけることを更に進めたい。

②現在は礼状などを送っているが、移住体験ができることや移住の利点、子育て・教育環境の充実などもPRしながら、アフターフォローをしていく。
③寄附金の使途が指定さ

れた中でも、臨機応変に使えるようにしなければならぬ。支援したい事業の趣旨に沿いながら、状況に応じて有効に活用していきたい。

マイナンバー制 度の個人番号通 知とカード交付

木村好孝 議員

番号通知の郵送や交付の手続きに関わる混乱が続いているが、本町における返送数の状況と対応、1月からの「個人番号カード」の交付にあたっての町民への対応や実務体制のあり方について伺う。
また、システム改修やカード交付に関わる費用

総額と国の補助金や事務委託金と町の財政負担の割合について伺う。

高薄町長

12月2日現在、返送数は322通（6・8%）であり、そのうち79通を手渡しして、残りの243通を保管している。保管義務は返送後3か月だが、長く保管していく。カードの交付にあたっては万全を期す。

システム改修費用の総額約4100万円のうち約67%を国の補助金で見込んでいる。補助割合は設定されており、人口などが反映される。今後の改修費用等には、町の財政負担が伴わないよう国に支援を要請している。